

# 未来へつなぐ

## 地球環境との調和 **カーボンニュートラルに向けた取り組み（気候変動への緩和策）**

当社グループのカーボンニュートラルを推進するとともに、これまで培った環境ソリューションノウハウを活かし、脱炭素社会の実現に貢献します。

### ▶ 中長期の環境目標

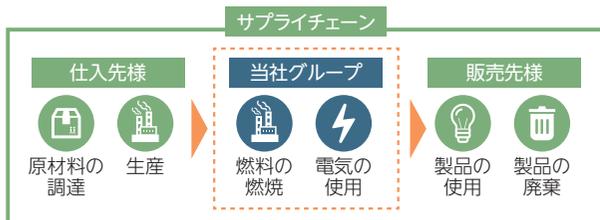
当社グループは、気候変動への対応が喫緊の課題であると認識しており、2021年10月に「サステナビリティ宣言」を策定し、2030年度までにユアサ商事グループ全体のカーボンニュートラルを目指しております。カーボンニュートラル達成に向け、2022年よりグループ全体でのCO<sub>2</sub>排出量の見える化に加え、各拠点の空調・照明設備の調査を行うCO<sub>2</sub>ポテンシャル診断を実施いたします。今後、運用改善や高効率設備への更新等で購入電力の削減を行うとともに、再エネルギーの導入等も検討いたします。ガソリンの使用量が多い営業用車両についてはエコカーへの切り替えを順次行います。

また、2022年3月にはTCFD提言に賛同し、気候変動に関する情報開示を推進してまいります。

### ■ ユアサ商事グループ全体のカーボンニュートラル



### ■ サプライチェーン全体での環境負荷の低減に努めます。

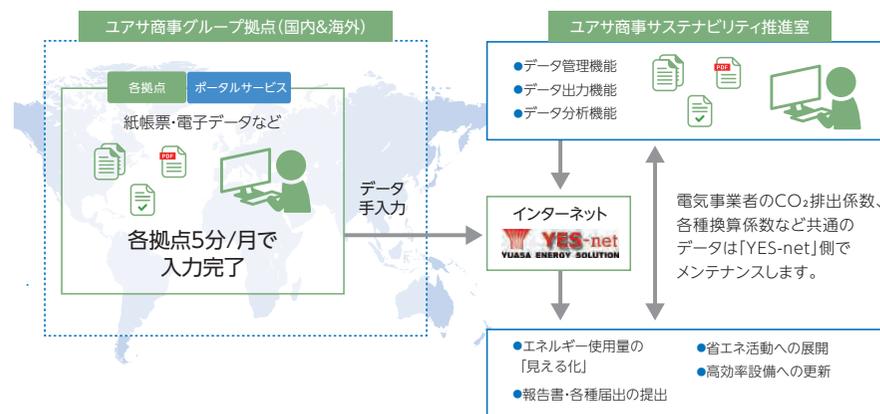


### ▶ お取引先様と自社のエネルギー使用量の把握に向けた取り組み（YES-net）

当社は2009年より業界に先駆けエネルギー統合管理システム「YES-net」を展開し、お取引先様の向上や事業者のCO<sub>2</sub>排出量の見える化と削減の支援を行っております。世界的なカーボンニュートラルへの潮流を当社グループの事業機会と捉え、本事業を更に推進してまいります。

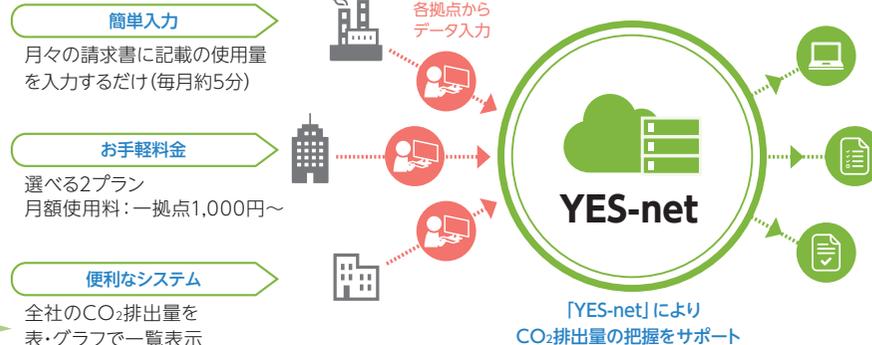
当社グループ内でもCO<sub>2</sub>排出量の算定のため、当社グループ全拠点（国内・海外合計：192拠点）でYES-netを活用しエネルギー使用量を計測しております。

#### ■ ユアサ商事グループ内での活用



### YES-netとは？

カーボンニュートラルはCO<sub>2</sub>排出量の「見える化」から。「YES-net」は、企業全体のエネルギー使用量データを効率よく収集・集計・管理して「CO<sub>2</sub>排出量を見える化」できるシステムです。



## / 未来へつなぐ

地球環境との調和 **カーボンニュートラルに向けた取り組み（気候変動への緩和策）**

## ▶ 脱炭素社会実現のための都市間連携事業参画

当社グループはこれまで、開発途上国の温室効果ガス（GHG）排出削減に貢献するJCM制度（2国間クレジット制度）を活用した取り組みを進め、地球環境の改善に取り組んできました。

当社はJCMを通じた環境インフラの海外展開を一層強力に推進するため、環境省が推進する「脱炭素社会実現のための都市間連携事業」に参画しております。

2021年度はホーチミン市とのオンラインワークショップに参加し、JCMプロジェクトの取り組みについての講演を行いました。今後、JCM案件形成支援業務を通じ、開発途上国の経済成長と環境保全の両立に貢献してまいります。

## ■ JCMの概要図



## ■ ワークショップの様子



当社の講演内容



ホーチミン市会場の様子

## ▶ 森林×脱炭素チャレンジ2022（ユアサ木材）

当社グループのユアサ木材では、北海道に所有する3カ所、計102.26ヘクタールの森林において、間伐や植林活動を行っています。林野庁の「森林×脱炭素チャレンジ2022」にて、森林整備を通じて脱炭素に貢献する「グリーンパートナー2022」として認められました。2020年から2021年の間に整備を行った森林における年間のCO<sub>2</sub>吸収量は22t-CO<sub>2</sub>と算定されております。

今後は間伐された木材の利用促進を通じ、教育機関の木育\*活動やワークショップ等で地域の産業振興にも貢献してまいります。

## ※木育とは

木材との関わりを深め、豊かなくらしづくり、社会づくり、そして森づくりに貢献する市民の育成を目指す活動をいいます。



更新伐を行った北海道の社有林

ユアサ木材が取得した  
グリーンパートナー2022

## ▶ 木造建築の推進

当社グループでは、木造新技術「囲柱ラーメン木構造」の採用や、当社グループのユアサ木材との連携強化で、中規模の木造建築を推進しております。

日本は国土の約3分の2を森林が占める森林国です。これらの木材を有効に活用して森林資源の循環利用を図ることが地球温暖化防止や国土保全、地域経済の活性化などにつながるため、建築物の木造化・木質化が評価されています。

「囲柱ラーメン木構造」を採用した病院の建築をはじめ、今後も建築物の木造化・木質化を通じ、脱炭素社会・持続可能な社会の構築に貢献いたします。

## ■ 建築物の木造化・木質化

囲柱ラーメン  
木構造の病院

内装に木材を利用



## / 未来へつなぐ

## 地球環境との調和 レジリエントな社会実現に向けた取り組み

自然災害の激甚化に対し、レジリエンス&セキュリティ事業を推進し、安心・安全な地域・社会づくりに貢献します。

## ▶ ジャパン・レジリエンス・アワード8年連続受賞

ジャパン・レジリエンス・アワードは、全国で開催されている次世代に向けたレジリエンス社会構築への先進的な取り組みを発掘、評価、表彰する制度で、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が2014年11月に創設したものです。

2022年度は当社で優秀賞1件、優良賞1件の計2件を受賞いたしました。

今後も、国土強靱化の様々なニーズにお応えするため、幅広いネットワークを活用した取り組みや、関連商品・システムの開発・販売・普及に注力してまいります。



ジャパン・レジリエンス・アワード

2022

## ■これまでの受賞歴

- |                |  |
|----------------|--|
| 第1回 金賞         | 「産業とくらし分野における国土強靱化コミュニケーション活動」                                     |
| 第2回 会長賞        | 「レジリエントな流通プラットフォーム基盤構築に向けた取り組み」                                    |
| 第3回 優秀賞        | 「観光ターミナル『箱根・桃源台駅』のレジリエンスステーション化」                                   |
| 第4回 最優秀レジリエンス賞 | 「シティコネクト『ライトステーション』の開発と普及」(キクカワクト(株)、(株)PIJIN、当社の3社共同)             |
| 第5回 優秀賞        | 「ミライノバージョンプロジェクト」(当社、他7社共同)  |
| 第6回 優良賞        | 「防災倉庫とソーラー蓄電システムをジョイントした『防災蓄電倉庫』の開発と普及」(株)稲葉製作所、(株)三英社製作所、当社の3社共同) |
| 第7回 最優秀賞       | 「サニテーションロボット エレファンター」  |
| 最優秀賞           | 「感染低減ハウス」(富士クオリティハウス(株))   |
| 優秀賞            | 「冠水センサ付ボラード」(株)サンポール、応用地質(株)、当社)                                   |
| 優秀賞            | 「全工種対応型予約管理システム『ITENE』」(ユアサクオビス(株)、(株)ダンドリワークス)                    |
| 第8回 優秀賞        | 「八千塚®」(株)イナハチ、環境エクステリア(株)、当社)                                      |
| 優良賞            | 「自社オリジナル展示会を活用したレジリエンス、セキュリティ、ESGの取り組み」                            |

## ▶ コンクリート組立塀改修アルミ目隠しフェンス『八千塚®』

株式会社イナハチ、環境エクステリア株式会社と当社の3社で、既設のコンクリート組立塀の支柱をそのまま利用し、アルミ製で軽量かつ低コストで組立ができるコンクリート組立塀改修アルミ目隠しフェンス『八千塚®』を開発しました。

鉄筋コンクリート組立塀(万年塀)は1950年代~70年代に多く建てられ、今でもよく目にしますが、老朽化に伴い震災時に倒壊の危険があります。しかしながら、建替えや修理を行うにも高額なコストがかかるため、危険な状態で放置されるケースが多いものです。本製品はコンクリート組立塀の基礎及び支柱をそのまま活用することで、コスト削減、工期短縮及び産業廃棄物の排出削減を実現できるとともに、軽量のアルミパネルで倒壊被害を軽減することができます。また、デザイン性も向上し、街の景観に合った改修を実施できます。すでに大手ガス会社や寺社などの18施設で採用されており、本製品の普及で安心・安全なまちづくりに貢献します。



施工前



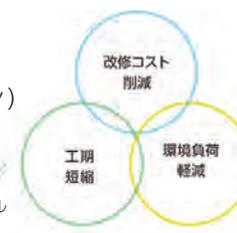
施工後

## ■八千塚®のメリット

- 軽量のアルミパネルで、地震での倒壊被害を軽減
- 既存の支柱や基礎を流用することで、以下を実現
  - ① 改修コストの削減(通常の改修と比べて、約35%のコストダウン)
  - ② 工期の短縮
  - ③ 産業廃棄物の排出を削減し、環境に配慮
- 柱カバー、笠木でデザイン性を向上

約85%軽量化

※一般的なコンクリートパネルとの比較



## / 未来へつなぐ

## 地球環境との調和 気候変動に関する取り組み (TCFDに基づく情報開示)

気候変動は世界的に取り組むべき重要性の高い課題です。当社グループでは2030年度までにグループ全体でカーボンニュートラル化を目指すことを決定し、2022年3月にTCFDに賛同しました。下記にこれまでの取り組み等を紹介いたします。引き続き、情報開示の拡充を進めてまいります。

## ▶ ガバナンス

当社取締役会では、気候変動に関わる様々なリスク、機会、影響等に関して、事業戦略及びサステナビリティに関する重要事項として審議し、方針等を決定しております。2021年10月に「サステナビリティ推進委員会」を新たに設置し【P.15,48】、取締役、執行役員等による定期的な議論を進めております。

気候変動に関わる指標のモニタリングや目標管理、各種リスク管理を進めるため、各拠点にサステナビリティ推進担当者を任命し、グループ全体での管理を進めています。

## ▶ 戦略

当社グループは、「モノづくり」「すまいづくり」「環境づくり」「まちづくり」の分野で専門商社として多様な商品・サービスを取り扱っており、気候変動に関する影響や事業環境の変化によるリスクや機会があります。影響を受ける事業や分野について、変革やリスク管理を進めるとともに、今後の政策や規制、市場環境の変化に応じた移行期の事業機会を積極的に捉え、持続的な成長を目指していきます。

事業については、社会全体での排出削減に貢献していくため、取扱製品・サービスの製造や使用時の排出削減を進めることが重要です。仕入先の製造工場等への再生可能エネルギーの導入支援を行うとともに、販売先やそのお客様による製品使用時の排出削減を進めるため、省エネ製品や脱炭素関連製品の取り扱いを拡大していきます。

また、甚大化する自然災害等、気候変動の物理的リスクに対応するレジリエンス事業も引き続き推進していきます。

グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量を2030年度までに実質ゼロとするため、太陽光発電による再生可能エネルギーの導入、高効率設備への更新、再生エネルギー電力の購入等を組み合わせて達成していきます。

部門名・事業名	省エネや排出削減につながる主な対象製品・サービス
産業機器	コンプレッサ、発動機、電動シリンダ 等
工業機械	省エネ型工作機械 各種 等
住設・管材・空調	高効率空調設備、太陽光発電システム、蓄電池 等
建築・エクステリア	LED照明、屋上緑化 等
建設機械	コンプレッサ、発動機 等
環境・エネルギー	再生可能エネルギーの導入支援、ソフトウェア販売 等
レジリエンス・セキュリティ	冠水検知通信システム・防災電源倉庫 等

## ▶ リスク管理

当社の事業は、主に日本国内の多様な産業分野にわたる大企業、中小・中堅企業との取引から成り立っており、気候変動に伴うリスクは、法規制や政策の変化、顧客需要の変化、経済社会環境の変化など多岐にわたります。

当事業に関わるリスクへの対応については、各事業部門において規制や市場環境の変化を評価し、対応しています。また、サプライチェーン全体のリスク管理を進めるため取引方針を策定し、社内外への周知を進めています。

気候変動に関わる物理的リスクについては、当社グループの国内拠点(約150カ所)を対象に、浸水及び土砂災害リスクの調査を実施しました。リスクの高い地域に所在する拠点については、社内の事業継続計画(BCP)対策との整合性を再確認しリスク管理を進めています。

今後、国内外の各拠点及び主要取引先等の気候変動リスクを確認し、社内のリスク対策等と統合的な管理を進めます。

## ▶ 指標と目標

2030年度までに当社グループ全体のカーボンニュートラル化を目指すとともに、サプライチェーン全体での環境負荷の低減に努めます。

2021年度から国内外のグループ各社で排出量の算定をはじめ、排出削減に向けた各種施策を開始しています。また、事業を通じたサプライチェーン全体の排出削減を進めるため、取扱製品の製造時の排出量についても算出をはじめております。

## ■ 当社グループの排出量 (2021年度)

	Scope1	Scope2	Scope3
ユアサ商事(単体)	約 2,900 トン		算定中
国内・海外グループ会社	算定中		